



野田建築会会報
NAA NEWSLETTER

VOL.50



2025 年 3 月に退任される岩岡竜夫教授（本文中 P04-05 に特集記事を掲載）

2025 SPRING

NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION

第 14 回 定期総会報告

本年は、対面とオンラインのハイブリッドで開催いたしました。オンラインにより、鹿児島県からも出席いただき、滞りなく、会は開催され、総会は成立しました。野田建築会は、常任幹事で構成する事業部会、広報部会（今季から会報部会と情報部会を統合しました）、名簿部会において、具体的な活動を運営してます。各部の2022年4月～2024年3月までの活動報告と2024年4月～2026年3月の活動計画案が示され、また、本会の役員・常任幹事の各人の構成が提案され、承認されました。詳しくは、HPの別に掲載されている議案書をご確認ください。

- 第 1 号議案：事業部会 2022 年度、2023 年度の活動報告 および 2024 年度、2025 年度の活動計画（案）
- 第 2 号議案：会報部会 2022 年度、2023 年度の活動報告 および 2024 年度、2025 年度の活動計画（案）
- 第 3 号議案：名簿部会 2022 年度、2023 年度の活動報告 および 2024 年度、2025 年度の活動計画（案）
- 第 4 号議案：情報部会 2022 年度、2023 年度の活動報告 および 2024 年度、2025 年度の活動計画（案）
- 第 5 号議案：会計および監査 2022 年度、2023 年度の会計報告・監査報告 および 2024 年度、2025 年度の予算（案）
- 第 6 号議案：任期満了に伴う役員改選について

第5号議案 抜粋
 2022 年度、2023 年度収支報告書
 2022 年度（2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日）
 1. 収入

項 目		予 算		135 名 2 口	決 算		差 額		
年会費（211 名）		633,000			405,000		△ 228,000		
寄付		200,000			20,000		△ 180,000		
HCD 封入費		0			5,000		5,000		
総会懇親会費		0			0		0		
広告収入		224,000			112,000		△ 112,000		
利息		0			6		6		
合 計		1,057,000			542,006		△ 514,994		
2. 支出									
部会名		項 目		予 算		決 算		差 額	
名簿部会		業務委託費用、事務費		88,000		88,000		0	
情報部会		メルマガ発行費		48,000		31,220		△ 16,780	
		ホームページ管理費		74,580		74,580		0	
会報部会		秋号発行		297,750		346,597		48,847	
		春号発行		323,950		299,667		△ 24,283	
		NAA 案内チラシ		57,000		54,725		△ 2,275	
事業部会		NAA 副賞代		20,000		20,295		295	
		zoom システム費		0		22,110		22,110	
		NODA アーキサロン記念講演会		100,000		62,053		△ 37,947	
		渉外活動費・総会費用		6,000		0		△ 6,000	
会計		その他雑費（会議室代・振込費用）		15,000		11,660		△ 3,340	
シアターナイト協賛金				20,000		20,000		0	
合 計				1,050,280		1,030,907		△ 19,373	
3. 収支									
項 目		予 算		決 算		差 額			
収入		1,057,000		542,006		△ 514,994			
支出		1,050,280		1,030,907		△ 19,373			
収支		6,720		△ 488,901		△ 495,621			
前期繰越金		3,124,780		3,124,780		0			
次期繰越金		3,131,500		2,635,879		△ 495,621			

3. 収支

項 目	予 算	決 算	差 額
収入	1,067,000	485,005	△ 581,995
支出	1,060,700	734,725	△ 325,975
収支	6,300	△ 249,720	△ 256,020
前期繰越金	3,131,500	2,635,879	△ 495,621
次期繰越金	3,137,800	2,386,159	△ 751,641

第 14 期（2024 ～ 2025 年度）役員および常任幹事

■新役員のご紹介

会長	菱崎嘉昭 (S62 卒)
副会長	大野芳俊 (S63 卒)
	野原聰哲 (S63 卒)
	鳥山暁子 (H13 卒)
事務局	栗飯原功一 (S60 卒) (局長)
	白岩和浩 (S60 卒) (局次長)
会計	白岩和浩 (兼任)
	八田直人 (S55 卒)
監査役	堀部加壽春 (S51 卒)
	高木郁夫 (S60 卒)
顧問	山崎晃弘 (S51 卒)

【常任幹事】

事業部会	吉村知郎 (S60 卒) ※
	五十嵐洋也 (S53 卒)
	野原聰哲 (兼任)
	佐久間達也 (H05 卒)
	堀教雄 (S62 卒)
	宮宅勇二 (S51 卒) 関西地区担当

広報部会	大野芳俊 (兼任) ※
	鳥山暁子 (兼任)
	村松佑樹 (H26 卒)
	児玉雅美 (H13 卒)
	高安重一 (H01 卒)
名簿部会	小長谷哲史 (H15 卒) ※
	涌井栄治 (S60 卒)

情報部会 会報部会に統合し、名称を広報部会に変更
[注記] 常任幹事の※印は、部会長を示す



懇親会の様子

第 14 期 新会長挨拶

平素は、野田建築会へのご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。2024 年 5 月 18 日に開催された野田建築会第 14 回定期総会において、会長に任命されました菱崎 (1987 卒、1989 大学院修了) です。第 13 期に続き、2 期目を務めることになりました。これまで諸先輩方々や、学生・OB の方々のご支援で築きあげられてきたこの組織を、承継し、さらなる発展させていくことが役目と認識し、努めてまいります。

第 13 期は、コロナ禍から徐々に解放され、後半はやっと対面式のイベントを普通に開催できるようになりました。また、コロナ禍の影響により、WEB による参加を併用しイベント開催方法を構築し、場所を問わず参加できるしくみが見出されてきました。

本会は、前にも述べましたように、大学・学生を支援することが重要な役割と考えています。本会の位置づけを理解いただき、皆様が参加して成り立っているような組織創りを目指してまいります。本会の会則第 2 条に、「会員の親睦をはかり、会員の研鑽を相互に支援して、建築文化の発展に寄与することを目的とする」と記しています。会員とは、理工学部の建築 (今年から創域理工学部の建築) 出身のみなさま全員です。みなさまの日々の仕事や研究、学習の活動等について語り合う場を、われわれ会員の親睦をはかる場を、企画してまいります。みな

さまのご活躍内容、様々な見解、ご意見を発信いただければ幸いです。

本会では、OB・学生がともに参加できる企画を考えています。対面 & WEB での開催を考えご都合に合わせて、どこからも参加いただけるような企画を構想中です。あわせて、築理会 (工学部建築学科の校友会) との交流を深めていくための、共同開催のイベントを企画中です。また、本会は、理窓会関連団体として、大学からも認められた組織となり、大学の理窓会の運営にも携わっていきます。

本会のさらなる発展が、みなさまの活躍の場にも少なからず、よい影響が生み出されると信じています。みなさまお互いの、みなさまと大学 (先生、学生を含む) の連携が必要です。どうか、ご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2024 年 7 月吉日
東京理科大学 野田建築会
会長 菱崎 嘉昭
(1987 年 上原研卒業、1989 年 上原研修了)

野田キャンパスでの自身の活動を振り返って



いわおか たつお
岩岡 竜夫

1960 年 長崎市生まれ
1978 年 長野県立松本深志高校卒業
1985 年 武蔵野美術大学大学院造形研究科建築学専攻修了
1990 年 東京工業大学（＝現東京科学大学）大学院博士課程修了
1992 年 東海大学工学部建築学科専任講師
1995 年 東海大学第二工学部建築デザイン学科助教授
2011 年 東京理科大学理工学部（＝現創域理工学部）建築学科教授
2016 年 フランス国立リール建築・造景大学客員教授
2025 年 東京理科大学退任



写真1

2011 年 3 月に起きた東日本大震災直後の 4 月、本学に着任した。与えられた 100m² ほどの四角い研究室は西向きで、午後になると西陽に悩まされた。西に向いた大きな窓の正面には（校舎竣工の 1966 年以前からあったろうと思われる）巨大なクスノキの勇姿が見えた（写真 1）。豊かな景観が保全されている利

根運河では、着任してまもなく、学部 2 年生の数名から、「地域住民と一緒にデザインを通じてまちを盛り上げるイベントを企画しているが、学科として後方支援をしていただけないか」という相談を受けた。その翌年から、現役の建築学生らがプロデュースする一大行事（＝利根運河シアターナイト）が毎年開催されているが、この自主的活動は 10 年を経てようやく大学側に認知していただいた。

この運河の名称を冠した学科のイヤーブック（＝UNGABOOK）を作ってはどうかと提案し、2012 年から主に学生の設計作品の掲載を中心に学科全体の主な活動を記録した冊子を発行するようになった。特に学科創設 50 周年の 2017 年には、たまたま学科主任だったということもあり、建築学科 50 年の歴史を振り返る特別号（＝UNGANEXT）を製作した。同時期に、利根運河に新たに架ける橋のデザインのコンペを野田建築会の役員の方々と共同して企画し、流山市長にも審査していただいた。余談であるが、優秀な成績を納めた学生のみ与えられる記念品（＝シルバーリング）は、一時製作中断の危機となったが、現在は日立市の金型工場で円形の真鍮台座を加えた形で製作していただいている。

学部 1 年生に対する座学では、住宅計画の解説に加えて、頭の中で 2 次元と 3 次元のあいだを行き来する

楽しさを伝えるために、（建築学生のための）建築図学の講義を行なった（写真 2）。学科のほとんどの学生が大学院修士課程に進学するようになり、カリキュラムは 4 年制から 6（＝3＋3）年制にほぼ移行した。大学院の設計スタジオでは、専門分野（系）の垣根を超えた演習授業や、海外の大学との合同ワークショップ形式の授業がいくつか開設されるようになり、各スタジオには中国を含めたアジア系留学生やフランスから来た交換留学生の姿も混じるようになった。

海外との交流としては、フランスのリール建築大学やボルドー建築大学、セルビアのノビサド大学、インドのチトカラ大学、中国の西安建築科技大学や青島理工大學、シンガポール国立大学など、多くの大学との国際合同ワークショップやシンポジウムなどの企画・開催に関わった。また、海外に半年あるいは一年間、交換留学生として海外生活を希望する大学院生が、コロナ後の円安時期にあって増えつつあることは、頼もしい限りである。

大学とは教育と研究の場であるといわれているが、私にとって教育即研究、研究即教育であると信じており、特に歴代助教や博士課程の学生らはそのことをよく理解してくれた。最後に、研究室を支えてくれたスタッフや学生たち、建築学教室の現役の先生方、先輩の先生方に、心から感謝いたします。

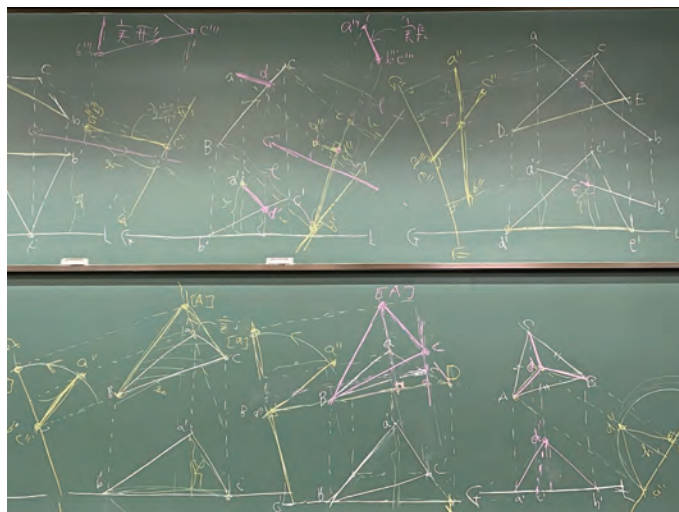


写真 2

岩岡先生との思い出

かたぎり ゆうじ
片桐 悠自

1989年 東京都生まれ
2012年 東京大学工学部建築学科卒業
2014年 フランス国立パリ・ラヴィレット建築大学留学
2017年 東京大学大学院工学系建築学専攻博士課程修了、博士（工学）
2017年 - 2021年 東京理科大学理工学部建築学科助教
2021年 - 現在 東京都市大学建築都市デザイン学部建築学科講師
2024年 - 現在 組積研スタジオ設立・主宰

2017年度から2020年度にかけて岩岡研の助教を務めた片桐と申します。岩岡先生は、私の理科大退職後も息子のように良くしていただいております。思い出は多岐にわたりますが、思えば、常日頃から、学生（そして助教を含む教員も）の自主的／自律的な活動を大切にしておられました。

野田キャンパスに着任した際の、最初の任務（？）が、セミ



2017年11月 岩岡+片桐スタジオ「人形の家」、野田キャンパスにて

ナーハウスでフランス・リール建築・造景大学の学生とともに滞在し、バーベキューを行うことだったのはいい思い出です。1年目より、私が学部生の頃より温めていた課題「人形の家」を受け入れてくださり、共同出題の機会をいただいたことが教員としての最初の自律だったような気がします。私の理科大退職後も堀越さんと出題を続けていただき、改めて感謝申し上げます。

野田キャンパスの建築学科に着任した際、はじめての就職で右も左もわからず不安だった私が、なんとかやれたのは、ひとえに岩岡先生の導きのおかげです。実際、4年目を経て都市大に着任できたのはありがたかったと同時に、多くの出会いがあった岩岡研にもう少しいたかったという若干の寂寞感もありました。その後、岩岡研と片桐研は合同ゼミや国際WSを継続しており、“孫弟子”たちをも育てていきたいと考えております。

岩岡先生、理科大でのお勤め、お疲れ様でした。そしてこれからもどうぞお願いいたします。



2024年4月 岩岡研+片桐研合同ゼミ 東京・乃木坂ハウスにて

ほりこし かずき
堀越 一希

2015 東京理科大学理工学部建築学科 卒業
2017 同大学大学院修士課程 修了
2018 IST（リスボン工科大学）ポルトガル留学
2020 同大学大学院博士後期課程 単位取得満期退学、博士（工学）取得
2020- Kazuki Horikoshi 主宰
2025 現在 東京理科大学創域理工学部建築学科 助教

忘れもしない、初めて岩岡先生と面と向かい一対一で建築の話をしたのは、私が本学3年次のときです。どこか飄々としたおらかな雰囲気、ときにクリティカルな言葉を放ち、なるほどその視点があったか…とハッと気付かされる。学生の主体的な思考を重んじつつ、やるならもっと深く先へと示唆する指導に感銘を受けたことを覚えています。

東京理科大学という場で岩岡先生と出会い早11年が経ちますが、先生の観察眼にはいまでも驚かされ、研究・教育・設計・ものづくりに対して常に疑いと行動力を持って挑む先生からたくさんのことを学びました。パ



2017年5月 パリ市内にて

リ、リスボンでの思い出、そして建築や集落を見にレンタカーで走った記憶、設計演習の小屋課題やスタジオの住宅設計課題を一緒にした授業経験は宝物です。これまで長きに亘りご指導いただき本当にありがとうございました。そしてまだまだこれからも、宜しくお願い致します。



2018年5月 湯河原町、榎浦ハウスにて

第4回 ノダ・アーキサロン @野田キャンパス

栗飯原 功一（1985 年卒 井口研）

第4回“ノダ・アーキサロン”を、2024年2月17日（土）野田キャンパスの新7号館6階大ホールにて行いました。今回テーマを「建築構造の今」と銘打って構造分野でご活躍されている、衣笠秀行様（1985年卒）、鈴木啓様（1994年卒）、名和研二様（1994年卒）の3名に登壇いただきました。

衣笠様は（ご存知のとおり）野田キャンパスで創域理工学部建築学科教授をされており、鈴木様と名和様は富澤稔研の同期で、お二人共、日本構造デザイン賞（鈴木様が2011年、名和様が2023年）を受賞されています。当日は、対面52名に加えてWEBも11名となり、計63名が参加しました。



衣笠教授

最初の登壇は、衣笠教授。大学授業さながらに“地震時の経済損失評価”について講義されました。今までの耐震設計の考え方（大地震は人命の保全、中小地震は財産の保全まで）に疑問提起し、加えて姉歯偽装事件からの反省点として、構造設計者が提供する“性能の見える化（一般人がわかる性能評価法）”について説明されました。

大地震によって「時間」が失われ、甚大な経済損失もその回復に対する時間評価が必要ではないかとの提議です。耐震設計は、強度設計→靱性設計が今までの流れですが、今後は「レジリエンス設計（損失や回復にかかる“時間”+“人”）」が加わる必要がある、と締めくくりました。

二人目は、鈴木啓（あきら）様。富澤稔研究室では地上に出ることなく基礎地震動の研究であったこと、M1の時（1995）阪神淡路大震災があり、衝撃を受けたことを回顧していました。翌年卒業し、佐々木睦郎構造計画や池田昌弘建築研究所で6年半の実務修業を行った際、入社後いきなり“せんだいメディアテーク”の実施設計と現場常駐を担当し、その後は、世界的に活躍する建築家（磯崎新氏、伊東豊雄氏、妹島和世氏、山本理顕氏）のプロジェクトを、数多く経験されたそうです。

2002年、ASA（エーエスアソシエイツ）を設立。設立当初は、それまでの設計とは違って、同世代の若手建築家との仕事を中心になったと回顧していました。2011年、“えんぱーく（塩尻市市民交流センター）”において、壁柱でつくる建築でコン



鈴木啓さん

ペを獲得し、前出の構造デザイン賞とともに様々な賞を受賞されています。最近では、建築のほか、家具デザインや海外を含む様々な場所でのワークショップや東日本震災復興プロジェクト一助も行うなど、活動範囲が広範囲に亘っているそうです。喫緊の問題点としては、構造設計業界でも人手不足が顕著であり、本日同席の名和さん含めコア8人メンバーで、アトリエ構造設計事務所の仕事紹介を毎年行っているということです。



名和研二さん

三人目は、名和研二様。当日は、野田キャンパスに卒業後30年振りに訪れたので、学生時代に住んでいたみどり荘に立ち寄ったが全く変わってなかったのが印象だったと前置き。学生時代は、お金のない中、ふら〜と、外国を放浪する生活も行いながら、鈴木氏と同じく富澤稔研究室にはいったが、本人は構造目的での研究室ではなかったと回顧。卒業時は、行く先の目標もないなかで設計事務所に入社し、就職先で“くび”を経験し、これを契機に一念発起、熱意をもって仕事に取り組むきっかけができたそうです。設計事務所を移って池田昌弘氏と



パネルディスカッション

の出会いで、構造は何でもできるという氏の姿勢に感銘を受け、その後、仕事の役割のなかで構造に転換することになったとのこと。座右の銘の紹介があり、「正解は真理の近傍にある」としているが、元を辿れば、代々木体育館の構造設計・坪井義勝氏の「美は構造的合理性の近傍にある」を（実はまちがって覚えて）自分なりに解釈していたものであると説明していました。

名和氏は、2002年に「なわけんジム」を設立、自身の日本構造デザイン賞受賞理由について説明され「個性体な構造デザイン群」での受賞であり単体建築対象ではなかったそうで

す。氏の構造に対する個性が今回の登壇の中にも垣間見え、受賞理由を理解することができました。最後に、学生時代、自身1日7時間も野田運河界隈をさまよい歩いていたことを回顧し、惑う（wander）→多いに惑う（wander full）→すばらしい！（wonderful）をもじって、「わんだふる！」のだ建築ワールド！！の名言（？）で登壇を締めくくりました。

登壇～パネルディスカッションの後、隣室にて懇親会を行いました。懇親会は32名参加で、内、学生が15名と約半数を占め、盛況のなかアーキサロンを終えることができました。



懇親会の様子

「野田キャンパスの今を見る会」報告

とりやまあきこ（2003年修了 初見研）

2024年12月23日（月）、「垣野先生のアテンドで野田キャンパスの今を見る見学会」を開催しました。有志の卒業生メンバー、垣野研の学生さんたちと一緒に、まずは薬学部区域にオープンしたばかりの国際学生寮「TUS グローバルレジデンス」からスタート。起業家を支援する新たなインキュベーション施設「TUS Innovation Hub」が併設されており、くわし説明をいただきました。その後、リニューアルされたばかりの「コミュニケーション棟」を通り、大きく様変わりした中庭（なんと池がありません！）、2019年に竣工した「7号館」をくまなく見学した後、我々の建築学科がある「2号館」へ。ピカピカの新棟たちに比べて、全く外観には変化がありませんが、内部にはエレベーターが設置されており、



山名研究室見学

各研究室やオープンスペース内部は個性的にリノベーションされています。その一面を借りて、この日一番の目的である「勉強会」を開催。その後、北千住に移動して楽しい時間を過ごしました。

垣野先生、有意義な時間をありがとうございました！

※2025年6月28日（土）に、第5回ノダ・アーキサロンを開催します。垣野先生による講演会を予定しています。詳細は裏表紙をご覧ください。



TUS Innovation Hub と TUS グローバルレジデンス



会議室のプレート

消防の現場から想うこと



いとう あやこ
伊藤 彩子

1993 年 女子学院高等学校卒業
1994 年 東京理科大学理工学部建築学科
(若松研究室)
1998 年 同大学理工学研究科建築学専攻
(若松研究室)
2000 年 東京消防庁入庁
外部派遣歴: 独立行政法人建築研究所、
総務省消防庁消防・救急課、消防大学
校教授
2024 年 警防部安全対策担当課長兼
安全推進部副参事 (安全推進担当)

よく「なぜ消防に？」と尋ねられます。若松研究室（建築防災）を選んだのは当時助手でいらした大宮先生（現・建築学科教授）の勧めでした。学生生活は冬から春のほとんどをスキー場で過ごす不良学生でしたが、建築防火や火災性状の知識とスキーで鍛えた心身は消防で活かせるのではないかと、そんな単純な理由で東京消防庁に入庁しました。現職は警防部警防課安全対策担当課長、災害現場等における消防隊の安全管理を担当しています。

入庁後、災害現場で消防隊として活動する一方で、消防での自分の存在意義を模索していた中、消防隊員の殉職をきっかけに「建築防火の知見を火災現場で活動する消防隊の安全管理に活かしたい」と考えるようになりました。

私が現場の指揮を執る立場になってからは「命の危険はある。けれど、命は懸けないでください」と伝えています。消防隊の

任務は「人命救助が最優先」です。猛火の中でも救助を待つ方がいれば消防隊は向かいます。しかし、私たち消防隊にも大切な家族や仲間がいます。どんなに過酷な現場に行っても、「ただいま」と無事に家族のもとに帰ることが当たり前でなければなりません。安全の保障などない災害現場において、それが当たり前前に実現されることを目標に、できることを追求し続けるため、私はいまでも消防組織に身を置いています。

消防隊は自分たちが活動上許容不可能なリスクを排除、軽減、回避しながら任務を遂行します。昨今、建築基準法の防耐火に係る規定等が緩和される中、火災現場で消防隊が自らの装備や能力だけで活動安全を実現するには限界がある、建築の支援によるリスクの抑制が不可欠だと感じています（支援には設計、施工から使用管理まで含みます）。

ないがしろにされがちな消防活動支援性能ですが、様々なフェーズで建築に携わる皆様が、それぞれの立場で「もしこの建物で火災が発生した場合、消防隊はどのように活動するのか」と一瞬でも想像していただけたら、その建築に住まう未来の人々の安全、安心にもつながるのではないかと、そんなことを思うのです。

未知への旅路



たけうち よしひこ
竹内 吉彦

1987 年 愛知県名古屋生まれ
2006 年～2010 年
東京理科大学（小嶋一浩研究室）
2010 年～2013 年
東京藝術大学大学院
(トム・ヘネガン研究室)
2011 年～2012 年
カタール・ニヤ工科大学 (ETSAB)
2012 年 ホセ・アントニオ・エリマス・トレス アーキテクト (インターン)
2014 年～2021 年
AS(旧称 青木淳建築計画事務所)
2021 年～ t デ (<https://t-de.net/>)

東京理科大学では小嶋一浩さんから建築を学び、その面白さに熱中していた。そして、大学院進学について小嶋さんに相談した時のことを、今でもはっきりと覚えている。「ここを出て、もっと大きな衝撃を受けろ。」そう背中を押され、藝大に当時新設されたトム・ヘネガン研究室への道を選んだ。振り返ると、その言葉が自分にとって大きな転機となった。

藝大大学院への進学は、広大な海に投げ出されたような感覚だった。トム研では海外の大学とのWSが繰り返され、その中で次第に「自分の理解を超えた建築」に触れたいという思いが募り、バルセロナへの留学を決めた。

ガウディをはじめとするバルセロナの建築には、言葉では説明できない不思議な魅力があった。現地でのインターンを通じて、理屈を超えた「感情」の力を肌で感じた。しかし、それは自分の育った環境とは異なる文脈に根差していることに思え、バルセロナで得たものをどう問い直すことができるか、日本の地で実践してみたいと思い至った。

帰国して青木淳さんの事務所の門を叩いた。青木さんの建築には不思議な問いが隠されていた。「なぜこうなっているのか？」その感覚はバルセロナの建築がもつ言葉にならない魅力とも共鳴していた。しかし青木さんはそれをなんとか「言葉」



消防大学校での教育訓練の様様（撮影者です）

として紡ぎ出そうとしているように見え、そこに身を投じて、じっくり建築を考えたいと思った。

最初に新潟県十日町市のプロジェクトを担当し、常駐して地域の声を聴きながら公共施設を設計するという経験は、自分の建築観を大きく揺さぶった。その後いくつかのプロジェクトを経て、〈ルイ・ヴィトン銀座並木店〉に5年間尽力したのちに独立した。

コロナ禍の中、小さな花屋の改装から始まり、2024年に初めての新築住宅〈白い邸〉を完成させた時に、ひとつ扉が開いたような気がした。そして、これからも終わることのない旅の中で、新たな風景を探していきたい。



LV GINZA



白い邸

まわり道しながら



まき ゆうこ
牧 祐子

1983年 新潟生まれ
2006年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
2008年 ヘルシンキ工科大学建築学科
General Study Program 修了
2010年 Konstfack インテリア
・家具デザイン学科修士課程修了
2010年～2015年
Elding Oscarson Arkitekter 勤務
2015年 STUDIO YUKO MAKI
(<https://studioyukomaki.com/>)

大学入学前、フィンランドとアルバー・アアルトを特集した雑誌に出会い、当時は馴染みのない国と名前でしたが、森と湖の美しい景色と素朴な建築の佇まいがとても印象に残っています。

入学後、先輩や同級生の知識の豊富さ、課題に取り組む熱量にカルチャーショックを受け、周りのレベルに追いついていくことに必死で、自分は建築の何が好きなんだろうと思い悩む日々。そんなときにふとアアルトの建築を思い出し、見に行くことを思い立ちました。バイトでお金を貯め、2年生の夏休みにフィンランドに渡り、アアルトの建築を見てまわりました。建築と同時にそこに置かれる家具や照明、テキスタイルなどが空間を美しく心地よいものにしていることに感銘を受け、帰国後も北欧の建築やインテリアデザインを知るにつれ留学を志すようになりました。



House in Otsu (独立後最初に設計した住宅) 写真: 山内紀人

ただ4年時は卒論と卒制で手一杯。卒業後1年フリーターをしながら浪人し、ヘルシンキ工科大学の私費留学プログラムへ進学しました。設計課題に取り組みながら国内外の建築を見てまわる中でインテリアや家具デザインの勉強がしたいと思い、翌年にはストックホルムにある芸大の院に進みました。頭で考えるより先に手を動かすような学生が多く、建築学科とは全く違う空気に最初は戸惑いましたが刺激的で楽しい2年間でした。それまでとは違うものの見方や感性を身につけたように思います。

卒業後は縁あって現地の設計事務所に就職し、仕事や暮らしを通して多くを学びました。



Kamimachi Flat (リノベーションした自邸) 写真: 山内紀人

ゆったりとした時間が流れる環境は肌に合っていましたが同時にこのままで良いのかという焦りもある中、両親から依頼された住宅を事務所を通して設計し、それに続いて友人から住宅の設計依頼があったのを契機に帰国しました。今思うと右も左も分からない中での独立でしたが先輩や友人の協力、アドバイスを得ながら今日に至ります。

これまで歩んできた道を振り返ると、自分は計画的に物事を進めることが得意ではないと感じます。ただその時々で悩んだり、目の前にある課題と向き合うことで次の道が見えてきたように思います。遠回りをしていますがその過程でかけがえの無い経験や出会いがあり自分の糧となっています。



HEX KEY(製品化されたプロダクト) 写真: NakNak

パッラーディオとスカルパに見る建築言語

佐久間 達也（1995 年修了）



バビロンよりブリオン夫妻の墓を見る

2024 年 6 月にイタリア北部のミラノ、ヴィチエンツァ、トレヴィーゾにて建築を見学しました。私は奥田研究室にて設計方法の研究を行っていましたが、その中で大学 4 年の時にパッラーディオの建築言語を知り、今改めて興味を持っています。以下見学した中から一部をご紹介します。

ヴィチエンツァとその郊外には、ユネスコにより世界遺産に登録された、ルネッサンス後期に活躍したアンドレア・パッラーディオによる作品が集中しています。

パッラーディオの作品にはセルリアーナやルーネットなど様々なエレメントが見られますが、特に古代ギリシアの様式による柱頭のオーダーは多くの作品で用いられています。パッラーディオの著書「建築四書」の中にはトスカナ式、ドーリス式、イオニア式、コリント式、コンポジット（イオニアとコリントの混成）式の 5 種のドローイングが掲載され、その形態が細かく定められています。なかでもイオニアは、パッラーディオの代表作である「ヴィラ・アルメリコ・カブラ・ラ・ロトンダ」「パラッツォ・ヴァルマラーナ」など多くの作品に用いられ、ユニークな二つの円の渦巻きが目を惹きます。ウィトルウィウスの著書「建築十書」には「柱頭には左右に垂れる波打つ巻き毛のような渦巻きを置き、…」という記述があり、パッラーディオはこれを繊細に表現しています。イオニアは柱のエンタシスという緩やかな曲線の先端に咲く、花のようにも見えますと感じます。



左上より時計回りに「パラッツォ・バルバラン・ダ・ボルト」「ヴィラ・アルメリコ・カブラ・ラ・ロトンダ」「パラッツォ・ヴァルマラーナ」「パラッツォ・トリッシーノ」のイオニア

「パラッツォ・トリッシーノ」は、パッラーディオの弟子であるヴィンチェンツォ・スカモッツィによるもので、その中庭はピーター・ズントーの著書「空気感」に写真が登場するほど存在感があります。この建物のパッラーディオ通りに面したコロネード（列柱）にはパッラーディオと同じイオニアが用いられており、デザインが継承されていることに感銘を受けました。



「パラッツォ・トリッシーノ」の中庭

トレヴィーゾにあるカルロ・スカルパの「ブリオン家の墓地」では、エントランスや礼拝堂など広大な敷地に分散するコンクリートの構造物に、ギザギザの凹凸が無数に施されていたことが印象的でした。



ブリオン夫妻の墓

ブリオン夫妻の墓石は窪みの中心にあり、互いに寄り添うように傾き、雨露をしのぐようにアーチの屋根が掛けられています。屋根の裏側には墓石を照らすかのように、色鮮やかなガラススタイルが貼られています。両端の支点にはそれぞれ外側にバランサーが突き出て、ギザギザのパターンが掘り込まれています。スカルパのスケッチにはアーチ頂部とバランサーに花や緑を生けた表現があります。もしスケッチの通りなら、バランサーはアーチの両翼に開く優雅な花台となり、ギザギザのパターンは自然とつながる手がかりだったのかもしれません。

建築に精神的豊かさをもたらす独創的なエレメントに、これからも注目していきたいと考えています。



バランサーのギザギザの装飾

新任助教のご挨拶



たかはし ゆうき
高橋 祐貴

2017年 横浜国立大学 理工学部
環境都市建築系学科 卒業
2019年 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻
博士前期課程 修了
2023年 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻
博士後期課程 修

初めまして。2024年4月より宮津研究室へ助教として着任いたしました高橋祐貴と申します。建築構造の分野の中で木造の制振や、少し変わったところで折り紙の工学的な活用方法の研究をしています。博士論文では折り紙機構が持つエネルギー吸収量の計算方法や、よりエネルギー吸収量の大きい形状の提案などを行いました。

能登半島地震でも木造住宅の被害は大きく、特に築年数の古い住宅に大きな被害が出ました。この被害を少しでも減らすために、既存住宅にも適用できるような耐震・制振装置は必要不可欠であると考えています。また、大学院在学時には企業との共同研究に携わる機会があり、最終的に製品として販売するところまで経験させていただきました。今後の研究活動でも、社会実装まで見据えて研究に取り組んでまいります。

若輩者ではありますが、研究者・教育者として精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

退任助教のご挨拶



ちえ ほんぼく
崔 烘福

1988年 韓国ソウル生まれ
2020年 東京理科大学 理工学研究科 建築学専攻 終了
2020年～2023年
東京理科大学 創域理工学部 建築学科 助教
2024年～ 日本大学 生産工学部 建築工学科 助教

2017年4月より3年間を兼松研究室で、2020年4月より4年間を衣笠研究室でお世話になりました。現在は、7年間学んだことをもとに、日本大学にて助教として勤めております。職位としては東京理科大学の時と同じですが、日本大学では、独立した研究室を持ち、5名の卒研生の指導をしています。また、教える授業も増えまして、建築実験、建築構造力学、建築構造設計など、材料から構造までに、広範囲の知識を身に着けながら教員生活を続けております。

東京理科大学では、博士後期課程を含めると、7年間もいましたので、まだまだ東京理科大学の人であるという感じがしています。在日期间が今年で10年目になる中で、理科大での記憶は私にとって母校かつ日本生活のほとんどだといっても過言ではないと思います。これからも、東京理科大学との縁を続けながら大学教員として成長したいと思います。何卒宜しくお願い致します。

若手社会人の声 ～カメラもコーヒーも建築でしょ。～



きむら てつ
木村 哲

2016年 暁星高等学校卒業
2021年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
2023年 東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻 修了
西田司研究室出身
2023年 海法圭建築設計事務所 入社

この度は野田建築会会報への寄稿の機会をいただき御礼申し上げます。建築設計事務所に入社して約2年が経ち、5物件の竣工を経験しました。毎日が勉強で、気づけば2年が経過していた感覚です。

「カメラもコーヒーも建築でしょ。」

カメラに夢中になり、建築をしていない不安を抱いていた際にかけていただいた西田先生の言葉です。

単純な私は、「全てが建築ならやりたいことをやろう」と思い、修士制作では撮影した映像を用いた設計手法を提案をしました。

現在はカメラマンとバリスタの仕事もしていますが、設計で悩んだ時にこの言葉に支えられ、カメラマンでは分析的視点や竣工写真の撮影、バリスタではコミュニケーションや空間を使う側の視点など、設計に大きな恩恵をもたらしています。あらゆる経験も建築で必ず役立つことを確信しています。なぜなら、全てが建築だからです。

末筆ながら、野田建築会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

信じるんだ、自分を、仲間を、叶える力を。

Believe.

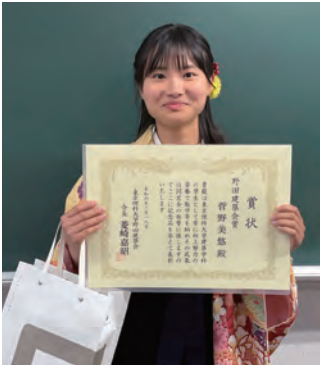
高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



2023 年度 第 26 回 NAA 賞紹介



菅野美悠さん

受賞者：菅野 美悠
学部4年生（令和6年度3月卒業、山名研究室）

受賞理由
菅野美悠さんは、常に向上努力の姿勢で勉学・研究に励みその成果を、卒業論文「日光金谷ホテルの室空間変遷に関する研究～所蔵建築資料のアーカイブ化を通して～」にまとめた。
卒業論文に対する真摯な取り組みと日々の努力と研鑽を讃え、NAA 賞を授与する。



今回の NAA 賞副賞
マグカップ：つちや まり
皿：遠藤 岳

2023 年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各賞受賞者リスト

【理工学部建築学科】

卒業論文賞 (一般コース)	最優秀	伊藤 研	陳 嘉檀
	優秀	山名 研	川村 碧生
	優秀	垣野 研	岡部 百合香 テイ ウケン 山田 望未
卒業論文賞 (通年コース)	最優秀	伊藤 研	古林 陸 本庄 翠菜
	最優秀	宮津 研	小野島 里帆
	優秀	吉澤 研	吉田 侑生
	優秀	衣笠 研	藤田 尚眞
	優秀	永野 研	竹内 大登
卒業設計賞	最優秀	西田 研	大本 萌絵
	優秀	西田 研	高安 耕太郎
	特別賞	山名 研	川村 碧生
	特別賞	西田 研	箕輪 羽月
	特別賞	垣野 研	山中 颯
学業優秀賞	1 位	垣野 研	廣瀬 晴香
	2 位	大宮 研	河村 明澄
	3 位	吉澤 研	野本 麻結

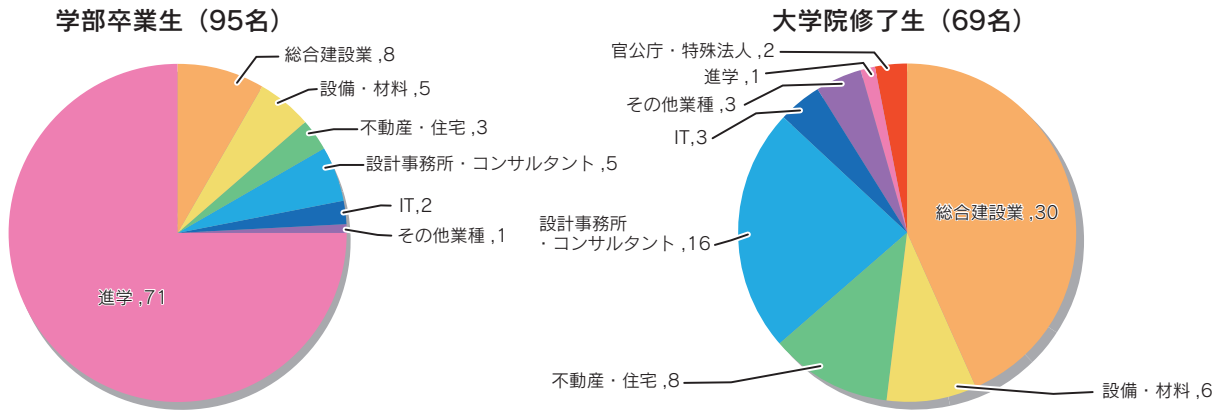
【理工学部研究科建築学専攻】

修士設計賞	最優秀作品	岩岡 研	半田 智大
	優秀作品	垣野 研	平澤 美織
	優秀作品	西田 研	坂田 佳誉子
修士研究奨励賞	最優秀賞	吉澤 研	松田 啓汰
	優秀賞	吉澤 研	荒野 華織
	優秀賞	永野 研	鈴木 仁那

【共通】

NAA 賞		山名 研	菅野 美悠
北村春幸賞	最優秀賞	永野 研	鈴木 仁那
	優秀賞	永野 研	関 慎太郎
	優秀賞	宮津 研	オウ ジュ

2023 年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各就職先リスト



利根運河シアターナイト 2024 本祭活動報告

シアターナイト 2024 実行委員

この度は利根運河シアターナイト 2024 にご来場いただき、ありがとうございました。

今年度は「tunagu」をテーマに利根運河の歴史を踏まえた地形や使われ方に目を向け、その空間を改めて楽しんでもらうことを目指しました。例年とは異なり、新たな挑戦として眺望の丘付近の場を開く形となりましたが、多くの方のご支援、ご協力のもと、たくさんの方にご来場いただき、大盛況でした。また、運河の新たな使い方や地形の良さなどをより多くの人に知っていただく機会を作ることができました。

今後も利根運河を中心とした創出活動を行ってまいります。ご支援ご協力、応援の方よりしくお願いいたします。

開催日時：10月19日(土) 16:00～20:00

開催場所：眺望の丘からふれあい橋にかけて

テーマ：「tunagu」

サイト：<https://toneunga-theaternight.amebaownd.com/>

インスタグラム：theaternight_2024

エックス：theaternight24



イベントパンフレットちらし画像



実際の会場写真（南岸からの風景）



実際の会場写真（北岸からの風景）



利根運河シアターナイト
実行委員会公式サイト

2025 年築理会・野田建築会合同新年会

菱崎 嘉昭（1987 年卒 上原研）



2025 年 1 月 23 日、理窓会倶楽部（PORTA 神楽坂 6 F）で、築理会・野田建築会合同新年会が開催されました。

築理会から 36 名、野田建築会から 5 名、先生 22 名他、ZOOM 参加 6 名による、にぎやかな宴となりました。築理会との合同イベントを開催し、工学部・理工学部の各建築学科卒業生の交流の活性化を宣言して、会を閉じました。

みなさま、イベント、顔を出してみてください。新しい出会いが待っています。
追記：築理会・野田建築会との合同イベントを企画中です。また、それぞれのイベントにも、参加できるようご案内いたします。みなさまの積極的なご参加をお待ちしています。世界が広がります！

2024 年ホームカミングデー報告

野原 聡哲（1988 年卒 若松研）

11 月 24 日にホームカミングデーが理大祭と同時開催されました。

昼過ぎから、同窓会会の広場会場ともなる薬学部エリア 13 号館のみなも食堂にて「祥子ミニライブ～再旅（ふたたび）～」が催され、野田建築会をはじめ関連団体含めたくさんの方々が集まりました。

ライブでは、祥子さんがピアノを弾きながら優しく歌声を響かせ、キーボードとギターの心地よい伴奏も加わって、会場は温かな雰囲気になりました。



奥田宗幸先生の傘寿と奥田研究室誕生から 50 周年を祝う

加地 正人（1987 年卒 奥田研）

コロナ禍で延期されていた奥田研 OBOG 会が、奥田宗幸先生の傘寿のお祝いと研究室発足 50 周年のお祝いを兼ねて開催されました。総勢 64 人が集まる本格的な会は、2011 年の先生の退職記念会以来となります。

会では先生の近況を伺うことができました。① ISO 委員会の委員として TC59 Buildings and civil engineering works (建築物) と TC10/SC8 Construction documentation (製品技術文書情報/建築分野) を担当。② ミラノの建築家マンジャロッチェのスタジオで在外研究員のご経験から、マンジャロッチェの業績を伝える展覧会やシンポジウムを開催。③ NPO 法人大森まちづくりカフェにて、地域の魅力の発信と交流を通じて地域の生活文化と空間の活性化を 20 年間にわたり活動。

歓談の中で、7 人が代表して当時の写真とともにエピソードを披露し、時代の違いに新鮮さを味わいました。

昨年、先生からご案内を頂いた「アルファベット・マンジャロッチェ」上映会がおこなわれました。その席で O 氏から OBOG 会の開催の提案があり、準備が始まりました。

O 氏と歴代助手・助教の 7 人は、幹事会をリモートで、案内状を一斉メールで、出欠回答と名簿整備をオンラインアンケートで、出席状況を SNS に随時アップなど、IT を活用して効率的に行いました。

新たな幹事が誕生し、今後の会の活動に期待は膨らみます。



『武田研卒業生の集い』が開催されました！

秋山 貴洋（2000 年卒 武田研）

2024 年 5 月 25 日に、神楽坂のイタリアンレストランにて、『武田研卒業生の集い』を開催しました。今回は、様々な業界で活躍する 1975 年卒から 2004 年卒までの幅広い年代の武田研卒業生 15 名が武田先生の元に集まりました。武田先生の冒頭あいさつの後に、先生を囲んで皆で食事をしながら、近況や思い出話に花を咲かせて楽しい時間を過ごしました。

武田研究室では、2010 年の武田先生の最終講義をきっかけとして、卒業生 529 名から成る OB・OG 会組織『たけのこ会』を 2011 年に発足させ、以後、総会、パーベキュー大会・セミナー、社会へ貢献した方々への表彰といった活動を継続的に行ってきました。しかしながら、コロナ禍の影響により、2020 年以降は会の活動を一時休止しておりました。

コロナ禍も落ち着き、このたび約 4 年ぶりに会の活動を再開することができたことは大変喜ばしい限りです。

今後またたけのこ会では幅広い年代の卒業生が気軽に集まれる機会をつくり、武田先生と卒業生ならびに卒業生同士の親睦を図ってまいります。



第8回 なみの会（井口&永野研究室）報告

栗飯原 功一（1985 年卒 井口研）

第8回『なみの会』（永野研究室と前身である井口研究室のOB／OG会）研究報告会が、2024年11月2日（土）、野田キャンパス新7号館で行われました。総勢約60名のうち、約20名がOB参加です。

今回は、最近の動的相互作用研究に関する話題提供をテーマに、安井譲先生（早稲田大学招聘研究員）、中井正一先生（千葉大学名誉教授）をお招きし、学会さながらの報告会となりました。会は、井口先生の挨拶に始まり、永野先生より研究室の近況報告、招待先生講義ののち、永野研から4名（M2山口潤君、M2吉川紗也加さん、M2山本真太郎君、M1宮田一平君）の研究発表がありました。引き続き、カナル食堂で、懇親会を開催し、盛会となりました。

研究室同窓会としては活発な活動を継続している“なみの会”の活動状況をパネル化し、ホームカミングデーで展示していますので、是非お立ち寄りください。（2025年10月19日、葛飾キャンパスで展示）



初見研究室 OB・OG 忘年会

市川 壮一（2001 年修了 初見研） 梅澤 豪太郎（2001 年修了 初見研）

2024年11月9日（土）18：00より、東京四ツ谷にて初見研究室OB・OG忘年会を楽しく催すことができました。

ご参加の皆さまにおかれましてはお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

初見先生をお迎えして、とても有意義で楽しいひとときとなりました。

追記：2025年1月に、初見先生が喜寿を迎えられました。おめでとうございます！また皆でお祝いさせてください。



第12回 東京理科大学 関西建築・土木のつどい

宮宅 勇二（1976 年卒 井口研）

今年も11月1日（金）に、シティプラザ大阪で「関西建築・土木のつどい」が開催され、関西二府四県をはじめ、東京や広島からも参加があり、総勢25名が集まりました。

この会は、任意団体で安井設計の佐野氏が提案して始められた会で、今回12回目を迎えます。出席者一人一人が近況報告をする中、なごやかな雰囲気では進んでゆきました。

新しく参加される方も4人おられて、代替りが進んでいる、という感じがしました。これからも参加してゆきたい、と思っています。



いつものお墓参り

五十嵐 洋也（1978 年卒 上原研）

12月になると上原先生のお墓参りに高尾駅に集合することが、いつものことになってきました。今回は2024年12月7日（土曜日）でした。寒い時期ですが、抜けるような青空に恵まれて、風もなかったため少し暖かさを感じられました。お墓のある東京霊園はなだらかな東傾斜の中にあり、お墓も東に向いています。そうです、東京や千葉に向いているのです。

お墓にお参りをして、真後ろを振り返ると関東平野が奥の方

まで目に飛び込んできます。

今年は7名の上原研究室OB・OGが参加し、近況を語り合いました。毎年のミニOB会というところですよ。そして、いつものように八王子の献杯会場へ。

そろそろ、ミニでない上原研究室同窓会を企画しようとの話も出ていますので、皆様ご期待ください。

参加者（卒業年）

五十嵐洋也（1978）、山崎晃弘（1976）、山岸順二（1981）、日高靖晃（1984）、好土崎倫子（1985）、白岩和浩（1985）、菱崎嘉昭（1987）



野田建築会 臨時総会開催のお知らせ



臨時総会（詳細は後日（4月末頃）配信メールまたはHPやFBでご案内いたします）

開催日時：2025年5月10日（土）14時～ 総会開始予定

場 所：PORTA 神楽坂会議室

※リモート（ZOOM）併用

※総会終了後、築理会主催の講演会、築理会・野田建築会合同懇親会を予定しています。

第5回 ノダ・アーキサロン開催のお知らせ

垣野義典教授（2001年修了・初見研・現在創域理工学部建築学科教授）による講演会を開催します。

講演テーマ：「（仮）学校建築と建築計画研究のいま」

開催日時：2025年6月28日（土）午後

場 所：PORTA 神楽坂会議室

また、講演後の懇親会では、行川さをりさんによるミニコンサートを企画しています。

どなたでもご参加いただける講演会と懇親会です。

ぜひお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

詳細は後日、NAA メールマガジンやホームページ、Facebook ページなどでお知らせします。

【2024年度メルマガ「第5回ヤマザキ賞」のお知らせ】

メルマガ講評として全般にいま一步の踏み込みが足りないところから、その結果、今年の該当者がおりませんでした。NAAメルマガ「ヤマザキ賞」は次年に繰越しとなります。

野田建築会顧問 山崎 晃弘（1976 卒上原研）

【編集後記】

野田建築会の会報誌が50号を迎え、記念すべき節目となりました。これまで多くのご寄稿を賜り、心より感謝申し上げます。

大学の様子や卒業後の活動をタイムリーにお届けするため、ホームページの刷新を計画していますが、まだ具体的な形にはなっておりません。そのため、記念50号の記事を掲載できず、申し訳ございません。これからもホームページの刷新に向けて努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（大野）

本号の制作にあたり、ご寄稿いただいた皆さま、そしていつも無理な直前の変更依頼にも快く対応してくださる武藤さんに心より感謝申し上げます。今回の会報は16ページとボリュームも増え、作業もなかなか大変でした。仕事の合間や休日を使っのボランティアでの編集作業は、かなり負担が大きく、さらに個人的な話ですが、息子の中学校でも広報委員をしており、そちらの広報誌の作業とも時期が重なって、なかなかハードな数週間でした（自業自得ですが…）。

この会報が、皆さんの手元に届き、少しでも目を通していただけたら嬉しいです。

次号もどうぞよろしくお願いいたします。（とりやまあきこ）

会費納入のお願い

NAAでは会則により、2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）の普通会員年会費として3,000円を納入いただいております。これらは会報の発行、ノダ・アーキサロンの開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。（お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください）

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。
※年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPよりお問合せください。

※会費は、ネット送金も可能です。右記口座にお振込みください。必ず、お名前と卒業年をご記入ください。

野田建築会会報 VOL.50 2025 SPRING

2025年3月1日

編集：広報部会（大野 芳俊/とりやま あきこ/高安 重一）

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

銀行振込 ゆうちょ銀行 店番号 019 当座 27644

（氏名の横に『学部卒業年』を西暦で記入してください）

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

